



堀田 帆那
出町MBC⑤(富山)
6年 / 160cm

短距離、長距離ともに県内トップクラスの實力で、ジャンプ力もあるが、鋭く強いドライブで得点を重ねる。バスケットを始めたのは経験者だった両親の影響で1年生から。今は「スピントーンからシュートを決めるのが好き」で、「もっといろいろな技を身に付けたい」とやる気に満ちていた。

吉川 瑞姫
黒雲スポーツ少年団⑥(福岡)
6年 / 152cm

「パワープレーで頑張る選手」と後藤治子コーチが評する吉川。チームは勝利にあと一步届かなかった。しかし、「相手ディフェンスが堅くて攻められないところがあったけれど、みんな協力して攻めることができたのは良かった」と吉川は振り返った。チームの目標は「ベストを尽くす」。吉川を中心にそれを体現した大会だった。



山岡 夕乃
御陵Vスパーク⑥(福井)
6年 / 158cm

7歳上と3歳上の兄たちの影響でバスケットを始めた山岡。高確率のアウトサイドシュートや鋭いクロスオーバーなど、多彩な攻め方で得点を重ねた。自らの1対1能力にはまだまだ満足していないようで、「もっといろいろな技を使って抜き切れるようになりたい」とドリブル力ももっと磨きたいと、高い向上心をつかがわせた。



杉山 もも
北郷成美スポーツ少年団④(静岡)
6年 / 143cm

姉の影響で1年生からバスケットを始めたという杉山。143cmとサイズは小さいものの、相手ディフェンスを引き出すようなアシストが光った。中学に向けて「中からも外からも点が取れて、ディフェンスでもしっかり相手を止められる選手になりたいです」と目標を語ってくれた。



清水 玲那
Kストロングサンダースクラブ④(岐阜)
6年 / 158cm

チームの中心選手で、メンバー全員が彼女を信頼していると小島章嗣コーチの評価も高い清水。落ち着いたドリブルワークで攻め込み、確実にシュートにつながるプレーが光った。清水自身も得意なプレーは、ドライブからユーロステップでディフェンスをかわしてのシュートと自信を持っている様子。中学での成長も楽しみだ。



谷 彩南
加賀クラブ⑤(石川)
6年 / 163cm

体を張ったリバウンドなど、ゴール下のプレーで大きな存在感を發揮した谷。一方1人でコートを縦に突切ってゴールを奪う突破力も見せるなど、オールラウンドな才能を持ち合わせている。「中学でも全国大会に出場して、今対戦した人と当たっても勝てるように頑張りたい！」と、きつぱりとした口調で合はそう語った。



成瀬 未唯
知立教室④(愛知)
6年 / 165cm

激しいプレーにも頭がブレず、安定した視線から繰り出される確実なシュートやパスが印象的な成瀬。相手をしっかり見据えたディフェンスでも光るものを見た。「得意なプレーは、自分で1対1を仕掛けてのシュート。もっと視野を広くして、上手なパスができるようになりたい」と、今後のさらなる成長に意欲を見せた。



藤本 詩羽
戸田ミニバスケットボールクラブ⑦(埼玉)
6年 / 164cm

仲間がつかないでくれたボールを、強い気持ちを入れてゴールへと運ぶ戸田クラブのエース藤本。チャンスでもピンチでも発揮される瞬発力は、チームの熱量の源にもなっている。「得意なプレーは45度からのドライブとジャンプシュート。緊張したけれど、シュートを決めたときは楽しかった」とミニバス最後の大会を振り返った。



平良 美海
南堀和立佐教小学校⑥(千葉)
6年 / 151cm

相手ディフェンスの隙間を射抜くパスで見事にボールをつないだかと思えば、糸を引くようにきれいな軌道のロングシュートを決めるなど、多彩なプレーを見せた平良。「相手が大きくても、自分の力を信じて勝負ができるということが分かりました」。夢だというWNBAの舞台に向かって、小さくとも確実な一歩を踏み出した。

林 如春
大田オレンジウィッチズスポーツ少年団④(山梨)
6年 / 150cm

試合経験豊富なメンバーが、鮮やかな連携プレーを披露した大田。中でも優れた状況判断と自慢の走力を武器に、攻防で相手を翻弄していたのがキャプテンの林だ。「レップスルーやバックチェンジなど、いろいろな技を組み合わせると難しい技に挑戦するのが好き」というチャレンジャー精神が、スキルアップにつながっていた。



伊藤 千寛
長島オールスターズ⑤(三重)
6年 / 169cm

ゴール下での力強いプレーが光る伊藤。特に今大会はキャプテン④近藤がケガで出場時間が限られたため、「4番の分まで頑張ろう」と思いましたと一人一層の奮闘を見た。目標は、現在足羽高でプレーしている姉の希。「今後のもっといろいろなことができるオールラウンダーになって、姉よりもうまくなりたいです」と意気込んでいる。

